

平成25年

秋の全国交通安全運動

実施期間 9月21日(土)~9月30日(月)

スローガン

ベルトした?
みんなしたよが

合言葉



交通安全図画最優秀作品 (平成24年度知事賞)

あぎやま ゆうせい

南島原市立野田小学校4年(当時) 穂山 優成 さんの作品

重点

- ★子どもと高齢者の交通事故防止
- ★夕暮れ時と夜間の歩行中、自転車乗用中の交通事故防止
- ★全ての座席のシートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底
- ★飲酒運転の根絶

特別広報 脇見・ぼんやり運転の防止

県内統一行事

9月24日(火)	広報活動強化の日 街頭指導活動	□歩行者やドライバー等に交通安全運動への積極的な参加を呼び掛けます。 □登下校中の児童生徒に対する街頭指導を強化します
9月25日(水)	街頭指導活動強化の日	□登下校指導をはじめ、自転車利用者へのマナーの遵守、高齢者の歩行中における危険行動、シートベルト着用等について街頭指導を強化します。
9月27日(金)	飲酒運転根絶啓発強化の日	□飲酒運転の根絶に向けた啓発活動を推進します。
9月30日(月)	交通事故死ゼロを目指す日	□住民一人ひとりが交通事故に注意して行動するよう呼び掛けます。

県年間スローガン

守ろう交通ルール 高めよう交通マナー

本県の交通事故死者31人、うち20人(64.5%)が高齢者

「脇見・ぼんやり運転による死者は二十四人(七十七・四%)」

本年の県内の交通事故は、八月二十二日現在、発生件数四、三九四件(前年同期比十一・四三件)、死者数三十一人(前年同期比十人)、負傷者数五、七一九人(前年同期比十一・九四人)と何れも前年比大幅に増加しています。本年の交通事故の死傷の特徴は、高齢者の死者が三十一人中二十人(全体の六十四・五%)と非常に多いこと、また、歩行者の死者が三十一人中十八人(全体の五十八・一%)、脇見・ぼんやり運転による死者が二十四人(全体の七十七・四%)と何れも非常に高い比率を示していること、飲酒運転による死者が既に五人(前年是一年間の死者が四人)を記録していることなどが挙げられます。皆さん、交通ルールを守り正しい交通マナーを実践して、交通事故に遭わないよう注意しましょう。

秋の全国交通安全運動実施要綱

(主催：長崎県交通安全推進県民協議会)

重点1 子どもと高齢者の交通事故防止

子どもとその保護者及び高齢者の交通安全意識の高揚を図るとともに、子どもと高齢者に対する保護意識の醸成を図るために主に次の項目を推進します。

高齢者は

○高齢運転者は、身体機能の衰えを自覚してゆとりある運転に努め、警察や自治体が開催する交通安全講習会に積極的に参加しましょう。また、車の運転に不安を感じたときは、交通事故の加害者や被害者となる前に運転免許証の返納を検討しましょう。

高齢歩行者は

○高齢歩行者は、夜間、早朝、薄暮などに外出する際は、明るい服装や反射材用品を身に付けるなど、ドライバークラッシュから見えやすい服装に心掛けましょう。

運転者は

○歩いている子どもや高齢者の近くを通過するときは、減速、徐行するなど「思いやり」のある運転に心掛けましょう。

家庭・地域・職場では

○夜間・早朝・薄暮などは、高齢者が道路を横断しているかもしれないと思ひ、注意しながら運転しましょう。

重点2 夕暮れ時と夜間の歩行中・自転車乗中の交通事故防止

秋口は、夕暮れから日没までの時間が急激に早まることから、歩行中・自転車乗用の交通事故の危険性が高くなる夕暮れ時と夜間の交通事故を防止するため、主に次の項目を推進します。

夕暮れ時と夜間の歩行中・自転車乗中は

○夕暮れ時は、早めにライトを点灯し、雨天・曇天時は終日点灯するなど、歩行者や自転車に自車の存在を知らせましょう。

運転者は

○夕暮れ時は、早めにライトを点灯し、雨天・曇天時は終日点灯するなど、歩行者や自転車に自車の存在を知らせましょう。

家庭・学校・地域・職場では

○反射材用品の利用や明るい目立つ色の服装に努めましょう。

関係機関・団体では

○子どもが自転車に乗るときは、ヘルメットを着用させるとともに、「自転車安全利用五則」など自転車の正しいルールやマナーについて指導しましょう。

重点3 全ての座席のシートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底

全ての座席においてシートベルトとチャイルドシートの正しい着用を徹底し、交通事故発生時における被害の防止・軽減を図るため、主に次の項目を推進します。

運転者は

○発進前のシートベルトとチャイルドシートの全席着用確認及び着用後の発進を実践しましょう。

家庭・地域・職場では

○シートベルトとチャイルドシートの正しい着用を習慣づけましょう。

関係機関・団体では

○各事業所において後部座席を含めたシートベルト等着用の徹底を図りましょう。

関係機関・団体では

○各種キャンペーンや交通安全教育等を通じて、全ての座席のシートベルト等の着用義務や着用効果について周知を図りましょう。

重点4 飲酒運転の根絶

人ひとりに対し、飲酒運転の悪質・危険性及び飲酒運転事故の悲惨さを訴えて規範意識の確立を図るとともに、飲酒運転を根絶するため、主に次の項目を推進します。

運転者は

○飲酒運転は、刑事、行政及び民事上の厳しい責任を伴う犯罪であることを自覚し、「飲酒運転は絶対にしない」という強い意志をもちましょう。

家庭・地域・職場では

○日頃から飲酒運転の悪質・危険性及び飲酒運転事故の悲惨さを話し合い、飲酒運転を絶対に許さない環境づくりに努めましょう。

関係機関・団体では

○飲酒運転をしないための職場内検討会を行ったり、朝の出発時にアルコールチェッカー等を利用するなど、職場ぐるみで飲酒運転の根絶に取り組む、規範意識を高めましょう。

関係機関・団体では

○各種メディアを活用して、ハンドルキーパー運動の推進や、飲酒者への車両提供禁止、運転者への酒類提供禁止、飲酒者が運転する車両への同乗禁止など、飲酒運転根絶についての広報啓発活動を展開しましょう。

夏の交通安全県民運動の実施と 期間中の交通事故発生状況

平成二十五年夏の交通安全県民運動が、七月十日(休)から十九日(金)までの十日間行われました。初日の七月十日(休)には、東彼杵町総合会館駐車場において交通警察出動式があり、坂谷朝男交通部長が「県民の命を守るための強い信念のもと、交通事故防止に努めて欲しい」と訓示。白バイ十五台、パトカー五台が町内で、パレードを行い交通事故防止を啓発しました。

交通安全協会では、期間中、長崎県・長崎県警察、その他関係機関との連携のもと、ポスター、リーフレット、新聞広告、テレビ、ラジオ、機関紙「交通安全ながさき」等あらゆる広報媒体を活用した交通安全広報を行ったほか、横断幕・のぼり旗・ポスター等の掲出、広報車による移動広報、交通安全街頭キャンペーン等を行い、「高齢者の交通事故防止」など、運動の重点に沿った交通広報を行いました。

なお、平成二十五年夏の交通安全県民運動期間中の交通事故の発生状況は、

発生件数 九十八件

(前年同期間比(-)二件)

死者数 一人

(前年同期間比(+))

負傷者数 一二人

(前年同期間比(-)六人)

と、昨年の期間中と比べて死

者は一人増加しましたが、発生件数、負傷者はともに減少しました。



服装等の点検を行う坂谷朝男県警交通部長及びご来賓の方々

自転車に「TSマーク」を貼りましょう!

「TSマーク」は、自転車を安全に利用してもらうための制度です。自転車安全整備士が自転車の点検・整備を行い、基準に適合した普通自転車に「TSマーク」を貼り付けます。このマークが貼られている自転車には賠償責任保険及び傷害保険が付加されます。「TSマーク」を貼る料金は、「TSマーク」を貼る前提となる普通自転車の点検・整備に要する料金(含下記保険料)となります。



- ★傷害保険
 - 入院15日以上 (一律) 10万円
 - 死亡・重度後遺障害(1~4級) (一律) 100万円
- ★賠償責任保険
 - 死亡・重度後遺障害(1~7級) (限度額) 2,000万円

第43回
二輪車安全運転
長崎県大会開催

長崎県交通安全協会は六月十六日(日)、大村市の長崎県警察運転免許試験場において、二輪車の安全運転技能と二輪車乗用中の交通マナーを競う「第四十三回二輪車安全運転長崎県大会」を開催しました。同大会では二輪車の排気量等による四つのクラスで競技が行われ、それぞれのクラスの優勝者

一般Aクラス(二五〇~四〇〇cc) 丸 宜 幸 選手

一般Bクラス(五〇〇cc以上) 田 端 誠 吾 選手

女性クラス(五〇cc) 井 手 智 子 選手

高校生等クラス(五〇cc) 川 口 幸 之 助 選手

などが、八月三日(土)、四日(日)三重県所在の鈴鹿サーキットで行われた全国大会に進みましたが、各クラスとも惜しくも六位入賞は逃しました。



演技を行う選手

第二十八回交通安全子ども自転車長崎県大会の開催 〜中央小学校(大村市)が 前年優勝の初山小学校(吉岐市)を破り見事初優勝〜

長崎県警察と長崎県交通安全協会は、七月二十五日(休)、長崎県立総合体育館(かぶとがにアリーナ)において、第三十八回交通安全子ども自転車長崎県大会を開催しました。同大会には、県下全域二十三日の小学校から九十二人の選手が出場、競技は、自転車の交通規則等に関する学科テストと、自転車の正しい乗り方を競う実技テストの合計二点で評価を行いました。各チームの選手とも、優勝を目指して毎日朝早くから暗くなるまで休みなく行った練習の成果を、応援に来た保護者や友人らに見せようと、精一杯の頑張りを見せました。

学科テストでは、川棚地区から出場した東彼杵町立彼杵小学校の選手四人全員が満点を獲得するなど大健闘しました。実技では、昨年の優勝校で連続優勝を狙う壱岐市立初山小学校と、優勝旗の奪取を期して厳しい練習を重ねてきた大村市立中央小学校が手に汗を握る熱戦を繰り広げました。特に、狭い間隔に設置されたピンの間をくぐり抜けて走行するジグザグ走行競技では、選手がうまく通過すると大きな歓声が上がります。惜しくもピンを倒すため息が漏れるなど、選手・会場一体の白熱の展開となりました。その結果、団体総合では大村市立中央小学校が一步抜け出し、見事優勝を飾りました。一方、壱岐市立初山小学校は、惜しくも二位となり涙を飲みました。また、個人総合では大村市立中央小学校六年の道添維月(みちぞえいづき)選手が、吉岐市立初山小学校六年の富田千尋(とみた ちひろ)選手を押さえて見事個人優勝を果たしました。団体優勝の大村市立中央小学校チーム四人は、八月七日(水)、東京ビッグサイトで行われた全国大会に出場、皆優勝を目指して頑張りましたが、残念ながら団体、個人とも入賞を逃しました。しかしながら、総合では全国二十五位と昨年より大きく躍進し、胸を張って帰りました。



県大会で団体・個人の部とも優勝の大村市立中央小学校チーム



各地区(市)交通安全協会の活動状況

長崎地区



長崎市桜馬場町国道で二輪運転者にチラシ・グッズを配り、マナーアップ運転を呼びかけた。

大浦地区



通園(学)、通勤時間帯の要所で立哨し、子どもや高齢者の誘導やドライバーへの安全運転を呼びかけた。

稲佐地区



警察、長崎市、地域交通安全活動推進委員、母の会員などとともに長崎市内の量販店駐車場において買物客に飲酒運転根絶への協力を呼びかけた。

浦上地区



長崎交通公園で13社14台の飾り付けコンクールの後、市内をパレードして飲酒運転根絶などを呼びかけた。

諫早市



高来西小学校区交通少年団員らとともに高来町のスーパー入口付近で買物客にチラシ・グッズを配り、飲酒運転の根絶などを呼びかけた。

南島原市



警察、母の会員らと有家町国道沿いで早めの点灯を呼びかけた。

佐世保市



警察、米海軍佐世保基地の軍人、地活推進委員、母の会などとともにグッズ、清涼飲料等を配り、脇見・ぼんやり運転防止等を呼びかけた。

雲仙市



雲仙市役所駐車場で小浜幼稚園児の踊りや、うせん辻幼稚園の手作りメダルの贈呈など華やかに車両パレード出発式を行い交通安全を呼びかけた。

大村市



関係機関・団体と協力し大村駅前周辺において高校生らの自転車利用者に対しマナー向上などを呼びかけ自転車の点検指導を行った。

松浦地区



警察官で編成する交通戦隊パトローラーVも緊急出動し、親子体験型交通安全教室を開催。

平戸地区



登校時に横断歩道を渡る1年生らを交通誘導する平戸市交通少年団の皆さん。

五島市



大浜地区で通行車両の運転者にチラシや反射材などを配り安全運転を呼びかけた。

上五島地区



奈良尾支所管内主要道路において警察、役場、母の会とともにチラシ、グッズを配り飲酒運転根絶などを呼びかけた。

対馬南地区



警察、役所、母の会などとともに管内国道で通行車両の運転者にチラシ・グッズを配り、シートベルト着用の徹底、飲酒運転根絶などを呼びかけた。

交通安全協会の活動にご協力を！

交通安全協会は、悲惨な交通事故をなくし、安全・安心な長崎県を実現するため、主に次のような活動を行っています。

- 各種交通安全キャンペーン、飲食店等の訪問による飲酒運転根絶の呼びかけ
- テレビ、ラジオ等あらゆる広報媒体を活用した交通安全広報
- 高齢者、子ども等への街頭交通安全指導、会員へのチャイルドシートの無料貸出し
- 新入学児童への黄色い帽子、ランドセルカバーなどの贈呈

これらの活動経費は、皆様方の会費によって支えられています。どうか、交通安全協会に入会し交通安全活動へのご協力をお願いします。

交通安全協会の会員になると、次のような特典があります!!

会員の皆さんが、交通安全協会協賛店で「会員証と免許証」を提示されますと、割引等のサービスを受けることができます。交通安全協会協賛店は、県下のガソリンスタンド、飲食店、資格・技能取得講座、宿泊施設、自動車・自転車販売修理店など623店舗（平成25年7月末日現在）です。

お問い合わせは長崎県交通安全協会又は地区(市)交通安全協会へ（長崎県交通安全協会）☎095-845-1770 <http://www.nagasaki-kotsu.or.jp/>



携帯でアクセスできます